



やさしさを「チカラ」に変える。
Kio 畿央大学

開学10周年記念誌



愛と絆 魅力ある未来へ

index

ごあいさつ	p.2
写真で見る10周年記念事業	p.4
数字で見る10年の到達点	p.8
畿央大学ロゴ	p.12
10年のあゆみ	p.18



ごあいさつ

私は「山の辺の道」近くに生を受け、農村の稲穂の香りとともに育ちましたが、その折、暮れなずむ西の空には、その頃は名前も知らなかった二上山や生駒山の茜色に染まる稜線を見ながらその彼方に様々な思いを込めたものであります。

今、三輪山のふもとに居を構え、朝日とともに二上山を前に見て畿央大学に向かい、夕日に映える三輪山に向かって帰る日々はまさしく「天の道」につきしたが、また天から与えられた使命にしたがった私の歩みを現しているかのように思われます。

心身ともに自立できる人に、そして社会に役立つ人になっていただきたい。そのために「私にできる限りのことをしよう」その思いでひたすら教育に取り組み60年近い年月を経て平成15年4月4日に畿央大学を開学するに至ったのであります。改めて文部科学省の一室にて認可の通知を受領した瞬間の感動は、言葉では言い尽くせぬ熱いものが胸にこみ上げる一瞬でありました。

この冬木記念ホールのロビーの壁面にはフランスの文豪ロマンローランの言葉を記しました。それは、「Als ich kann」…訳すと「私にできるだけのことを」という意味であります。私の教育にかける思いをこのことばに託して記しております。

さて、私の夢を実現させるべく、畿央大学開学にあたっては、今後の人生にお

いて一番大切であろう健康に関連のある学部をまず開学しよう、ということで始めさせていただいたのが、健康科学部でございました。また、自分の人生のすべてをかけて歩んできた教育に関する大切な場をどうしても作ってみたい、その夢を実現させるべく、教育学部を開学するに至ったわけでございます。さらに、時代の進展にともない、より高度な学問の場として大学院を設け、研究所を開設し、いのちと向き合い、未来を生み出す助産学専攻科を設置いたしました。

大学の発展は、学生ひとりひとりの心の成長によるのであり、それを成し遂げるのは、昭和21年の学園創設のときから一貫して精神的支柱でありつづける建学の精神、「徳をのばす、知をみがく、美をつくる」であります。

畿央大学開学十周年にあたっての決意を「愛と絆 魅力ある未来へ」という言葉であらわしました。この10年、多くの方々の協力を得てすすむことができました。その皆様方への感謝の心を持って10年をふりかえり、また次の夢を育んでいこうとの思いを、この言葉に込めています。

最後に改めて、新たなステージをめざす畿央大学そして冬木学園に、皆様方の温かいご支援、ご協力をお願い申し上げ、ご挨拶と致します。



畿央大学 学長

西本 智子



「愛と絆 魅力ある未来へ」のキャッチコピーをもとに、「愛」をハート、リボンを結ぶことで「絆」を表しています。

リボンが上へ、広がりが伸びていく様は、これからの畿央大学の未来へ羽ばたくイメージを表現しています。

記念式典・祝賀会

2013年5月26日

1

写真で見る 10周年 記念事業

10年間の歩みを振り返り、その成果の検証と発展を支えて下さった方々への感謝の気持ちを伝えるとともに、次の10年に向けて畿央大学のめざすところを明らかにし、新たな発展につながる多様な記念事業を行いました。



【畿央大学開学10周年記念モニュメント】

建学の精神「徳をのばす、知をみがく、美をつくる」をカタチにしたもので、楕円の学びの皿一面を大海原に見立て、白砂利の中から立ち上がる3つの水柱「徳」「知」「美」が真ん中にある学園に見立てたガラス玉に流れ込みます。一つひとつのガラス玉から放たれる光は生命のエネルギーを表しています。

(健康科学部 人間環境デザイン学科 加藤信喜准教授 制作)



記念式典

冬木智子学長は式辞で、10年間の感謝の念と「愛と絆を大切に、これからも魅力ある未来へ前進していきたい」との決意が述べられました。また卒業生から建学の精神が社会人としての心構えの基本になっていると活躍の報告がされ、ひととき大きな拍手が送られていました。



健康栄養専攻卒業生
鈴木 慶一



看護医療学科卒業生
村前 莉沙



人間環境デザイン専攻卒業生
廣岡 学



理学療法学科卒業生
吉川 奈々



現代教育学科卒業生
門積 健太



記念モニュメント除幕式 2013年3月19日

平成24年度の卒業式に先立ち、畿央大学開学10周年を記念してモニュメント除幕式が行われ、寄贈者である畿央大学後援会(上山準大会長)から冬木智子学長へ贈呈されました。



祝賀会

食堂棟1階にご来賓、地階は卒業生に別れて、約350名が出席し、和やかな記念祝賀会を行いました。



記念植樹

畿桜会(同窓会)からの寄贈によるソメイヨシノザクラの植樹が、県畿桜会会長と冬木正彦副学長により行われました。



人間環境デザイン学科「大卒業展」・シンポジウム
2013年3月2日(土)・3日(日)

学 科 企 画

10周年を記念して、各学科の独自企画が行われました。人間環境デザイン学科は卒業研究・作品展に卒業生を招いて「卒業研究で考えたこと、そして今」をテーマに語ってもらいました。教育学部では「21世紀を生き抜く子どもの学力形成」をテーマに安彦忠彦先生(名古屋大学名誉教授)をお招きしての講演とシンポジウム。健康栄養学科では「卒業生活動報告会」と「これからのチーム医療」について臨床栄養シンポジウムを行いました。理学療法学科では松田暉先生(大阪大学名誉教授)をお招きして特別講演会「プロフェッショナルとしての理学療法士への処方箋」と「理学療法士としての道を拓く」と題した卒業生によるシンポジウムを開催しました。看護医療学科では「いのちに寄り添う看護」についての基調講演と「いのちの現場にふれて」というテーマで学生による学びの発表を行いました。いずれの企画も学科教員や学生たち、卒業生も交えての充実した内容で、畿央大学の10年の歩みに確信を持つことが出来る内容でした。



教育学部シンポジウム
2013年6月29日(土)



臨床栄養シンポジウム
2013年7月7日(日)



理学療法特別講演会・シンポジウム
2013年8月24日(土)

看護医療学科シンポジウム
2013年8月31日(日)



洋画家絹谷幸二氏記念講演会
2013年6月15日(土)

研 究 ・ イ ベ ン ト

10周年記念のプロジェクト研究では「心豊かな生活をおくるための健康科学」「質の高い健康寿命をめざす健康科学」をテーマに取り組みました。また10周年記念の在外研究では3名の教員が半年または1年間に渡って海外での研究活動に取り組み成果をあげています。10周年記念のラストイベントとして行った「地域連携フェア」では地域の行政・商工団体・企業など各界の皆様と連携して、まちづくり、健康づくり、新商品開発などに取り組んできた成果を「見て・触って・食べて・楽しんでいただく」盛りだくさんのプログラムを提供し、多くの方楽しんで頂きました。また10周年を記念して「近畿の中央で健康と教育を学ぶ」をキャッチコピーとして全面広告を朝日、毎日、読売、産経、日経、奈良新聞に掲載。畿央大学の名前と実績をアピールしました。



地域連携フェア
2013年12月8日(日)



健康科学研究所プロジェクト研究・在外研究

新聞全面広告 2013年10月5日(日)朝刊

2 数字で見る10年の到達点

1学部2学科でスタートした畿央大学は、2学部5学科を擁する総合大学へと着実に歩んできました。この10周年を機に教育・研究力を高め、時代のニーズに応え、さらに魅力ある大学に進化します。



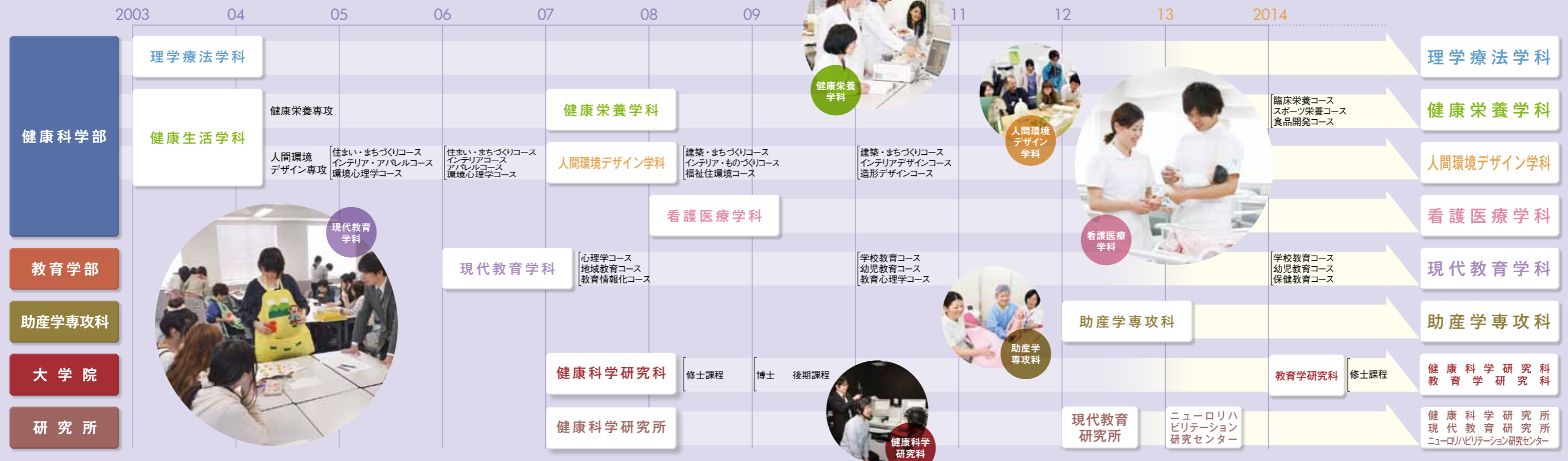
理学療法学科

学士授与数 **2,141**名

学位授与数(修士) **100**名

学位授与数(博士) **10**名

健康と教育の分野で豊かな人間性と専門的な能力を養う総合的な大学へ



全国トップクラスの就職率と資格取得で社会に貢献する大学

理学療法学科	
入学者数(1~10期生)	720名
卒業生数(1~7期生)	459名
就職者数(1~7期生)	443名
就職率(1~7期生)	97.8%

看護医療学科	
入学者数(1~5期生)	453名
卒業生数(1,2期生)	175名
就職者数(1,2期生)	152名
就職率(1,2期生)	97.4%

健康栄養学科	
入学者数(1~10期生)	785名
卒業生数(1~7期生)	526名
就職者数(1~7期生)	468名
就職率(1~7期生)	92.1%

人間環境デザイン学科	
入学者数(1~10期生)	602名
卒業生数(1~7期生)	373名
就職者数(1~7期生)	319名
就職率(1~7期生)	86.7%

現代教育学科	
入学者数(1~7期生)	1131名
卒業生数(1~4期生)	608名
就職者数(1~4期生)	562名
就職率(1~4期生)	93.5%

助産学専攻科	
入学者数(1,2期生)	14
卒業生数(1期生)	4

大学院	
修士課程修了生	100
博士後期課程修了生	10

各種免許資格等の取得者数 (2007年3月~2013年3月卒業生)	
理学療法士	447名
看護師	168名
保健師	145名
管理栄養士	406名
フードスペシャリスト	405名
認定心理士	111名
インテリアプランナー	142名
小学校教諭	426名
養護教諭	157名
幼稚園教諭	256名
保育士	190名
中学・高等学校教諭(家庭)	16名
高等学校教諭(情報)	29名
社会教育主事	70名
助産師	4名



地域での取組みと自治体等との連携

畿央大学は開学当初より地域に貢献できる「地域に開かれた大学でありたい」との強い思いを抱いて活動しています。奈良県中南部地区にある唯一の総合大学として、地域の皆様への窓口として地域連携センターを設け、学部・学科の枠を超えてグローバルな活動を展開して参りました。



地域との連携

学生は授業や実習で地域の課題に取り組むほか、ボランティア活動など課外活動を通して学びを深めます。

2003年～	第1回畿央大学公開講座 第1回畿央祭・ウエルカムキャンパス
2005年	桜井三輪の景観まちづくり(～2010年3月)
2007年～	学校インターンシップ Kio元気塾
2008年～	マミボコ・キッズ、マミボコ親子ひろば
2009年～	エコールマミ商業施設提案 橿原商工会議所連携事業
2010年～	広陵町特定検診・運動教室
2011年～	御所市名柄旧郵便局舎改修
2013年～	奈良県産食材活用レシピ開発



橿原商工会議所連携事業	
古代弁当製作「やまと恋うた弁当」	(2009年)
万葉人からの贈り物「大和まなのタルト・ほうろ」	(2010年)
観光おもやげもの開発「マシュマロ・ペットボトルカバー」	(2011年)
スイーツレシピ開発	(2012年)
橿原産ショウガを使ったレシピ開発	(2013年)



FEPホール企画

冬木学園教育推進プロジェクト(FEP)ホール企画は、冬木学園の社会貢献事業の一環として冬木記念ホールを地域の皆様に提供すべく行われています。

第1回 2009.12.18	映画ガイアシンフォニー 「地球交響曲第一番」上映会
第2回 2010.06.26	桂文我おやこ寄席
第3回 2010.12.11	宇宙、人間、ニュートリノ ～ノーベル賞学者小柴昌俊氏が語る人生論～
第4回 2011.06.11	橿原交響楽団ファミリーコンサート
第5回 2011.12.17	元全日本女子バレーボール監督 柳本晶一氏の体験談
第6回 2012.06.16	あすか劇団「時空」ファミリーシアター
第7回 2013.07.27	ソン・ソルナムフルート演奏会



やまとフォーラム

やまとフォーラムは、毎年夏に実施される冬木学園の教員と地域の実社会で活躍されている方を講師にむかえ開催する大型公開講座です。

第1回 2009.08.30	古谷千佳子氏(写真家)・ 森岡周教授の特別対談と21の公開講座
第2回 2010.08.29	倍巖良明氏(奈良「法徳寺」副住職)講演と 14の公開講座
第3回 2011.08.28	やなせなな氏(シンガーソングライター) トーク&ライブと14の公開講座
第4回 2012.08.26	平田進也氏(日本旅行カリスマ添乗員) トークショーと13の公開講座
第5回 2013.09.01	坂本信幸氏(高岡市万葉歴史館館長) 講演会と13の公開講座



広陵町との協定

自治体等との協定

畿央大学は産官学連携を進めていくうえで自治体等と連携し、地域に根差した教育・研究を実践しています。また、大学教育の発展充実にとって、中等教育との接続はますます重要になっています。さらに初等・中等教育との連携・接続を深めるために近畿圏内の教育委員会とも連携協定を締結し、学校インターンシップやボランティアに積極的に取り組み、有意義な高大連携や小大連携事業を推進しています。

自治体等との包括的な連携協力

2006年 9月29日	奈良市
2008年 3月26日	香芝市
2008年 4月 3日	大和高田市
2008年 4月28日	奈良県立野外活動センター
2011年 8月30日	御所市
2013年 5月29日	奈良県中央卸売市場
2013年 6月28日	橿原市
2013年10月 3日	広陵町
2013年11月12日	斑鳩町

教育委員会との連携協力

2006年 9月29日	奈良市教育委員会
2007年 7月 2日	京都市教育委員会
2008年 3月 7日	広陵町教育委員会
2008年 3月26日	香芝市教育委員会
2008年 3月27日	宇陀市教育委員会
2008年 4月 1日	安堵町教育委員会
2008年 4月 3日	大和高田市教育委員会
2008年 5月 7日	上牧町教育委員会
2008年 5月30日	田原本町教育委員会
2008年 7月 7日	大阪市教育委員会
2008年10月22日	斑鳩町教育委員会
2010年 9月22日	八尾市教育委員会

高等学校との連携協力

2008年 5月30日	大谷高等学校(京都府)
2008年 8月22日	東大谷高等学校
2008年 9月26日	上宮高等学校
2008年11月17日	奈良県立高田高等学校
2009年 4月21日	奈良県立平城高等学校
2009年 5月 7日	育英西高等学校
2009年 7月 6日	奈良県立桜井高等学校
2009年 8月 3日	奈良県立橿原高等学校
2010年 7月23日	奈良県立奈良北高等学校
2011年 3月28日	奈良育英高等学校



真美ヶ丘との出会い

3 畿央大学ルポ その1

きっかけはアンケートから

畿央大学の前身、桜井女子短期大学はJR桜井駅より徒歩20分、小高い丘の中腹にあった。校舎から奈良盆地を見渡す眺めはすばらしかったが、大阪からの通学圏というにはあまりに不便であり、また敷地も狭く大学設置基準には満たなかった。平成12年の春より四年制大学への改組転換計画を進め始めたとき、まず直面したのがキャンパス用地の確保の問題だった。ちょうどそのとき、都市基盤整備公団から送られてきた施設用地アンケートに「キャンパスの移転計画がある」と回答したところ、公団は真美ヶ丘を移転用地として提案してきたのである。

当時の岡井総務部長は語る。「都市基盤整備公団が真美ヶ丘ニュータウンを開発し、その中央に集合住

宅を予定していたわけですが、経済が失速したので集合住宅の建築をあきらめた。用途変更をして販売しようとしたところにちょうど畿央大学の設置計画が重なった。あのアンケートが来なければ、畿央大学の今の形はちがっていたのかもしれない」。

理事長の視察と決意

用地の提案はあったものの大きな投資を伴うものであり、理事長としての経営判断が求められる。そこで、平成12年10月28日、理事長は岡井総務部長らと現在の畿央大学キャンパスの地に初めて立った。理事長は語る。「現地視察のとき、三輪山を背にして幹線道路を西へと進むにつれて二上山が目の前に近づいてくる、まずそれに感動したわけです。そしてこの高台に立った

ときに、私の高等教育にかける夢、そして使命をはたせる場所に出会えた、心の底からの叫びを感じたように思います。そしてその日に大学設置の決心を固めたような次第です」。それからのペースは速かった。翌1月には土地を提供する住宅公団・まちづくりシステムとの交渉を始め、3月には広陵町議会の承認も得て、3月30日に25,000㎡の用地購入の手続きが完了した。その2年後、畿央大学は真美ヶ丘の地に開学し、入学者を迎えることができたのである。

交通至便 しかも自然豊かな環境

畿央大学がこれまで順調に発展してきた理由として真美ヶ丘にキャンパスを得られたことは大きい。水上入学センター長は語る。「まず鶴橋駅から五位堂駅まで約20分で来

られる、大阪が通学圏だということは志願者を集める上で有利です。現に、畿央大学の入学者の半数は大阪から得ています。しかもキャンパスの周囲は緑豊かで静かで落ちついた雰囲気です。遊びたい学生には不便かも知れませんが、本学のように専門性を培うためにしっかり勉強しなければいけない学生達にとっては望ましいといえるでしょう。オープンキャンパスに来た受験生や保護者にも環境の良さが好評です」。

畿央大学は地域に開かれた大学をめざし、住民を対象にした公開講座や健康チェックなどの取り組みも行っている。それには多くの地域住民が参加され、喜んで頂いている。この10年間で畿央大学は、真美ヶ丘に根付いた大学になれたと言ってよいだろう。



畿央大学ルポ その2

四年制大学理学療法学科のパイオニア



よく伸びる理学療法士を養成するために

2003年4月畿央大学が開学するまで、関西の四年制大学で理学療法士資格が取得できるのは神戸大学だけだった。理学療法士資格は専門学校で取得するのが一般的で、専門学校の中でもその分野は人気があったので、新たに理学療法の専門学校を開設する動きも盛んだった。四年制大学ということになると大学設置基準を満たすため研究業績のある教員を獲得する必要がある、また施設設備のハードルも高い。他大学が取り組もうとしなかったことに、なぜ畿央大学は挑戦したのか。

庄本理学療法学科長は語る。「理学療法の扱う対象も生まれたての赤ちゃんから高齢者まで幅広くなり、医学の発達とともに高度な技術が求められるようになっていました。専門学校ではどうしても免許に

直結する教育中心ですが、大学では教養科目があり、また基礎医学に関わる専門基礎についてもしっかり学びます。根っこの深い木はよく伸びるが、根っこの浅い木は弱い。その分野に根を深く張るための教育が、大学なら出来る。そのことにいち早く気づき、チャレンジしたのが畿央大学だったということです」。

10年間、トップを走る

関西で初めて、全国でもまだ少なかった畿央大学の理学療法学科には初年度約2千5百名の志願者が集まり、実質倍率27倍という結果が出た。その後、関西だけをみても畿央大学開設の翌年に2大学、翌々年に4大学と、倍々ゲームの勢いで理学療法士の資格を取れる大学が増え、現在は19大学にまでなっている(2013年現在)。しかしトップ

を走ってきた畿央大学の優位性はゆるがない。「最初に開設したことで優秀な学生を獲得でき、どこよりも早く卒業生を社会に出すという実績がつくれたことは大きい」と水上入学センター長は語る。理学療法各分野の第一人者を教員として招聘できたこと、充実したカリキュラムや実習病院など、レベルの高い学生を満足させる学びを提供できたことも、その後の成功へとつながった。また関西私大で唯一、リハビリテーション分野で博士後期課程まである大学院の存在は学生にとって大きな魅力。脳神経科学に基づく「ニューロリハビリテーションセミナー」の開催など、教員が研究に取り組み、最先端の情報を発信し続ける姿勢も学生の刺激となっている。こうした環境で学んだ学生は実習先の病院でも評価が高く、「畿央大学の学生なら引き受けたい」と

いう病院も少なくない。

理学療法士のリーダーに

理学療法学科開設から10年。卒業生は、医療現場で理学療法士として活躍している。研究に取り組む卒業生も多く、この数年、畿央大学卒業生による学会発表回数は全国の大学中でも際立っている。その根底にあるのは、よりよい治療を提供したいという思い。「先生も教育だけでなく、臨床や研究に熱心に取り組まれています。その姿勢を見習いたい」と卒業生は語る。

働きながら研究に取り組む卒業生の姿は、建学の精神「徳をのばす、知をみがく、美をつくる」そのもの。その多くが理学療法士のリーダーとなり、わが国の理学療法のレベルを向上させてくれることを期待したいものだ。

畿央大学ルポ その3

心と心をつないで



学生一人ひとりを きめ細かくサポート

「畿央大学とは、どのような大学ですか?」。こう尋ねると、多くの学生は「アットホームで、先生と学生との距離が近い大学です」と答える。その理由のひとつが、担任制だ。担任は年2回、担当の学生全員と個別面談を行う。1対1の関係を持つことによって、担任は学生一人ひとりをより深く理解することができる。また、こうした機会は、学生が担任を身近に感じるきっかけにもなっているようだ。実際、担任には、友人関係の悩みから日々の生活のことまで、さまざまな相談が持ちかけられる。学生にとって担任は、頼れる存在なのだ。

クラス担任とは別に、キャリアセンターに学科ごとの専従担当者を置いているのも畿央大学の特徴だ。畿央大学では学科によって学

生が就職先として志望する業界は決まっている。キャリア担当者は自分が担当する学科の業界に精通し、学生を支援していく必要がある。各学科の学生数はそれほど多くないので、担当者は学生一人ひとりのキャリア相談に親身に対応することができる。また、クラス担任と連携して学生の現状を把握し、次のステップに進む後押しをすることもキャリア担当者の大切な役割だ。

先輩から後輩へ、 仲間と共に成長する

学生はさまざまな課外活動にも参加し、多くの気づきを得て、成長していく。よりよい学生生活を送るために学生自身が活動している学生自治会「畿友会」はそのひとつ。新入生歓迎会やクリスマス会、球技大会など、さまざまなイベントを企画・実施し、学生同士の交流の

場を実現している。また学生からの要望を受け、大学の担当職員と交渉することも畿友会の仕事。学生にとってこの活動は人と関わる難しさを感じながら、その大切さを実感する機会となっているようだ。

学部、学年を越えて多くの学生の出会いの場となっているクラブ活動やサークル活動も活発だ。被災地支援サークル「HOPEFUL」は学生同士だけでなく、東日本大震災の被災地支援を通して、被災者の方々との交流を深めている。アウトドアサークルや軽音楽部などは100名を超える学生が加入して活発な活動を行い、また理学療法研究会や教職クラブでは自分の将来に向けての学びを深め、卒業生たちとも交流している。クラブ・サークル数は2013年4月現在57を数え、1・2回生の加入率は76.5%となっている。例年100名を超える実行委員会で8000

名を超える参加者を迎えて成功させている畿央祭など、畿央大学では人と人の心をつなぐ機会が数多く用意され、その中で学生たちは大きく成長している。

地域に広がる、 人と人のふれあい

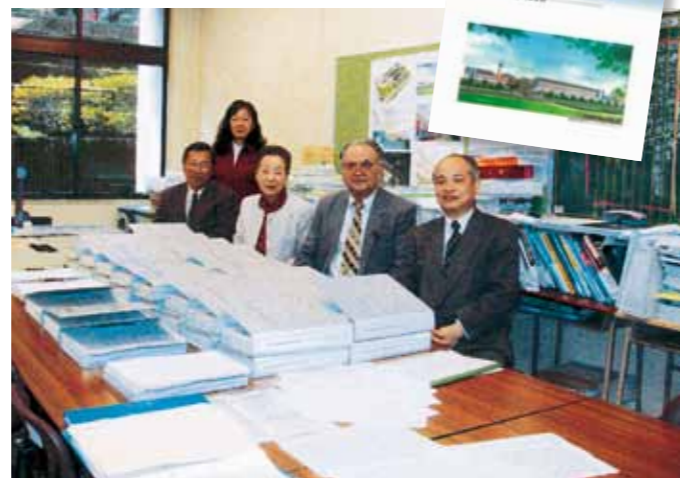
現代教育学科の学生たちは、地域の小学生をキャンパスに招いて一緒に遊ぶ「マミポコ・キッズ」、地域の幼児やその保護者と交流する「マミポコ・親子ひろば」を実施。理学療法学科では地域の高齢者を対象にした「元気塾」を開催したり、健康栄養学科でも地域の要請に応えたメニューの開発に取り組んでいる。地域の人たちとのふれあいを重視するこれらの活動を通して、学生たちは豊かなコミュニケーション力を育んでいる。

4

10年のあゆみ

2003年に真美ヶ丘ニュータウンに新しく開学した畿央大学は、2014年春には第4期目の増築工事を終えます。写真であゆみをふり返ります。

2002 平成14年



4月26日
畿央大学認可申請

文部科学省大学設置事務室との頻繁な交渉を重ねた上で、文部科学大臣宛に設置認可申請書類を提出。10月31日には、補正申請書を提出した。



12月19日
畿央大学設置認可

冬木智子理事長が文部科学省で、工藤智規高等教育局長より認可証を受け取る。健康教育学部理学療法学科と健康生活学科(健康栄養と人間環境デザインの専攻)で、収容定員は720名。



5月13日
畿央大学キャンパス起工式

キャンパス建設工事は、冬木智子理事長のお浄めによる起工式から着手され、11月12日の上棟式を済ませ、翌年の3月6日に竣工式を迎えた。



3月6日
畿央大学キャンパス竣工式

開学を1ヵ月後に控え竣工式を開催、設計会社や施工の竹中工務店に感謝状を贈呈。これに先立って行われた定礎式では冬木智子理事長の揮毫による「定礎」が披露された。

5月17日
畿央大学開学記念式典

大学構内東側広場での記念植樹の後、畿央大学アリーナを会場に開学記念祝賀会を開催。各界の代表や報道関係者など約200名が参加する盛大な祝賀会となった。



4月4日
畿央大学開学式・健康科学部1期生入学式

柿本善也奈良県知事、冬木智子理事長らのテープカットに続き、畿央大学アリーナで開学式と第1回入学式を開催、畿央大学200名、短期大学部93名、専攻科2名の新生の入学が許可された。



2003 平成15年

10月25・26日
第1回畿央祭

学生自治会「畿友会」が短期大学部の学友会と実行委員会を組織し、初めての大学祭『畿央祭』を開催。テーマは「初めの初めの第一歩」で、桜井女子短大からの伝統により、模擬店の売上げの一部は日本赤十字社に寄付された。



5月9日
開学記念モニュメント除幕式

大学開学を記念して、蘭桜会(短大同窓会)・蘭友会(高校同窓会)から寄贈された。

2004

平成16年

5月8日

大学後援会総会

広報誌を発行し保護者懇談会を実施。大学と保護者を繋いでいる。

6月1日

第二実習棟 (D棟)竣工式

製図室、造形実習室などがあり、主に人間環境デザイン学科が使用している。



9月21日

学生食堂営業開始



3月20日

健康科学部1期生卒業式・卒業パーティ

畿央大学第一期生176名の卒業式を挙行。冬木学長は卒業生一人ひとりに「おめでとう」とやさしい言葉をかけられた。



2005

平成17年

2月18日

クラブハウス(第二キャンパス)完成

たたみ室としても使える小体育館と体育会系のクラブ部室が完成した。



4月13日

第二講義棟(H棟・E棟)地鎮祭

教育学部の開設に備えて、冬木記念ホール、第二講義棟の建築を計画した。

12月5日

教育学部設置認可

教育学部は小学校教諭・養護教諭・幼稚園教諭と保育士や認定心理士など、資格取得が多く、カリキュラム編成と教員確保は高いハードルとなったが、無事認可を得ることができた。

3月31日

第二講義棟 竣工式



4月1日

教育学部開設

4月17日

キャリアセンター開設

5月21日

冬木学園創立60周年 記念式典・祝賀会・モニュメント除幕式

2006

平成18年



開式に先立ち、記念モニュメントの除幕式を実施。記念式典では、関西中央高校バトントワリング部の演技、冬木智子特別奨励賞の表彰、理事長の講演があり、祝賀会では、附属幼稚園児の太鼓演奏が披露された。



5月27日

大運動会(グラウンド)

第二キャンパスで「第1回畿央大学大運動会」が開かれ、新しい祭典が畿央大学の歴史の1ページに加わった。



9月24日

冬木学園創立 60周年記念 シンポジウム (養老孟司氏講演会)

当日、記念ホールは満席となり、好評を博した。

10月16日

第1回エッセイコンテスト入賞者発表



12月3日

保護者懇談会

145名の保護者が参加。教職員との懇親を深めていただいた。

2007

平成19年

4月1日

健康科学 研究所開設



4月6・7日

新入生宿泊研修

新入生の不安解消と仲間づくりを目的に、学科毎に1泊2日の研修を実施している。

5月27日

畿央大学同窓会 設立総会

同窓会発起人の松下佳史さんが同窓会設立総会の開催を宣言。畿央大学同窓会会則を提案、役員を選出した。



8月2日

看護医療学科開設記念シンポジウム (日野原重明氏講演会)

日野原先生の基調講演では、心にかかっている雲を取り除きいのちを輝かせる方法をユーモラスな語り口で話し、会場を沸かせた。

9月6・7日/12月15・16日

学習キャンプ

学生が主体となって毎年2回(夏・冬)のキャンプを行っている。

10月13日

健康科学研究所開設記念 シンポジウム(伊藤正男氏講演会)

「脳科学のめざすところ」をテーマにした世界的な脳科学者の伊藤正男先生による特別講演では、脳科学の最先端情報が紹介された。





3月18日

第三講義棟(K棟)竣工式

看護医療学科開設に伴い、新校舎K棟が誕生。K棟新築を機会に講義棟の名称を改めた。

平成20年

4月1日

健康科学部看護医療学科開設 教職支援センター、 ボランティアセンター開設

教職志望の学生を支援する教職支援センター、ボランティア活動の支援を行うボランティアセンターが始動。

2008



5月17日

畿友会主催 「Spring Carnival」

クラブ・サークルをはじめ、多くの団体が個性的なパフォーマンスを披露。若いパワーが炸裂した。

5月24日

畿桜会設立

畿央大学同窓会と桜井女子短期大学同窓会の蘭桜会が「畿桜会」として統合された。



10月18日

健康科学研究所・大学院健康科学研究科共催シンポジウム

他大学・企業の研究者や医療関係者が来場。特別講演では、柿木隆介教授が脳の働きなどについて説明された。



平成21年

2009



8月30日

第1回やまとフォーラム

「育む」をテーマに、沖縄在住のカメラマン古谷千佳子さんと畿央大学の森岡周教授との対談が行われた。

12月18日

第1回FEPホール企画

地球の未来に重要なメッセージを持つ6人のドキュメントオムニバス映画『地球交響曲第一番』上映会を実施。



4月1日

助産学専攻科開設

4月1日

現代教育研究所開設

12月8日

現代教育研究所開所記念シンポジウム (小野田正利氏講演会)

教育関係者をお招きし、教育現場における課題や、教員と保護者との良好な関係の作り方などについてお話いただいた。



3月23日

教育学部1期生卒業

教育学部第一期生157名が卒業。冬木学長は式辞で「感動する心、感謝の心を忘れないでください」と結ばれた。



2010

平成22年

3月24日

大学機関別認証評価

日本高等教育評価機構により「大学評価基準を満たしている」と認定された。

7月24・25日

ニューロリハビリテーション セミナー(基礎編)開講

理学療法士を中心に、全国から約200名もの方々が参加。ニューロリハビリテーションへの関心の高さがうかがえた。



2月19・20日

人間環境デザイン学科 「卒業研究・作品展」初の学外展示

前年まで学内展示のみ行っていた「卒業研究・作品展」を奈良市のならまちセンターで開催した。



平成23年

2011



4月13日~15日/20日~22日

離島・へき地医療体験実習

看護医療学科4回生は、鳥羽市にある離島で2泊3日の地域密着型の実習を行っている。



2012

平成24年



4月1日

ニューロリハビリテーション 研究センター開設

脳科学に基づいた新しいリハビリテーションを研究する。

2013

平成25年

11月19日

第二キャンパス整備工事 竣工式

テニスコートの造成と、クラブ室10室を備えるクラブボックスが完成。テニスコートは公式テニスに対応したサイズで、人工芝に砂を敷き詰めたオムニコート仕様。夜間使用も可能となっている。





〒635-0832 奈良県北葛城郡広陵町馬見中4-2-2
TEL 0745-54-1601 FAX 0745-54-1600

<http://www.kio.ac.jp>